

第1回 北大阪急行線延伸検討委員会の議事要旨

日 時：平成20年（2008年）9月3日（水） 午前10時～12時

場 所：大阪第一ホテル 6階 ランスロットの間

内 容：調査の進め方（案）について

平成17～18年度調査、平成19年度関係者連絡会議のレビュー
事業費縮減考慮した整備計画案について
次回委員会に向けて

《主な意見》

路線整備のミッションに関する内容について

- 延伸整備による道路交通量の削減効果、渋滞緩和効果の検討が必要である。また、この延伸に併せてバス交通体系の見直しによりバスのトリップ長が短くなると考えられるので、バスの負荷が減る効果も考えられる。その点に着目していただきたい。
- かやの中央や箕面市全体、さらに広域に対して北大阪急行の延伸がどれくらい効果が発生するかを視野に入れてほしい。全体の事業の中で比較して、財政負担をしてでも事業を推進するために、箕面市の街全体に対してこれだけのインパクトや効果があると明確に整理してほしい。
- 府の財政的な立場からいうと、需要と採算性だけでは認められにくい。どのような効果があるかをわかりやすくまとめる必要がある。例えば、広く都市構造や経済活動にどのような影響があるのか、地域的な効果だけでなく広域的な効果を含めて整理していただきたい。
- 鉄道部会の報告書では新幹線の幹線アクセスも重要視されている。まさにこの路線というのは新大阪からの新幹線へのアクセスを増大させるという解釈もできる。

運行・需要予測に関する内容について

- 北急の延伸整備により、御堂筋の梅田以南の混雑助長につながる可能性があるため、その影響を検討する必要がある。
- 例えば、西梅田・十三連絡線による需要分散が考えられるように、鉄道ネットワークの変化により各路線間の需要量の配分が変わるということを念頭において分析をしてもらいたい。
- 路線整備の順番によって需要が変化する。その整理が必要である。また、長期的に言えば通勤需要が減り、ラッシュ時間帯の低落傾向は特に2010年以降は出てくることが予想されるため、できれば整備時期にあわせてどれくらいになるかという背景の原単位を示してほしい。長期的には鉄道経営は厳しい状況が続くので、配慮していただきたい。
- 需要予測の前提条件について、第2回委員会で提示してもらいたい。

整備計画案に関する内容について

- 駅部運用変更による直通案は、コスト縮減効果が大きいので、原案と同列に扱い、検討の深度化を行うべきである。
- 将来的な複線整備の可能性を残しながら、一時的に単線整備を行うというような考え方はできないのか。これによってさらに事業費縮減が可能になるのではないか。
- 単線整備については、費用だけではなく、機能的なものと将来的なリスクも整理した方がよい。

- 単線では、周辺の複線との鉄道の格が違ってくる。それがまちの格にもなってしまう。
- 単線整備案をはじめから除外するのではなく、技術的にできるのであれば検討して評価の際にしぼりこみをしてはどうか。ここまで検討をしたが問題があるというような整理で、検討したことは残しておいた方がよい。

事業制度に関する内容について

- 国の制度を変えることによって施策を誘導するということもあるが、一方で具体的なニーズがないとなかなか制度変更には向かっていかない。既存の制度だけではなかなか実現できないが、制度変更すれば実現性が高まるという提案があれば、国のほうでも制度改訂の参考になる。
- 都市鉄道等利便増進法は間口が広いが、都市鉄道利便増進事業は採択が厳しくなっていると聞いている。利便増進法を改訂するのではなく、利便増進事業の採択要件を見直すというのが鉄道部会の報告にもあるので、地下鉄補助の見直しだけでなくその方向でも働きかけたほうがよい。
- 環境改善効果や開発者利益についても広い意味での受益となる。この受益を踏まえた整理が必要である。
- 償還型と受益活用型の二つで検討してきたが、その中間型も想定して検討を進める必要がある。

以上